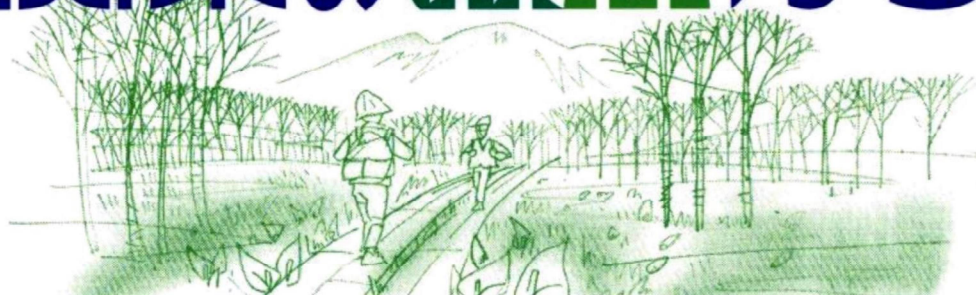


令和7年11月1日

第257号

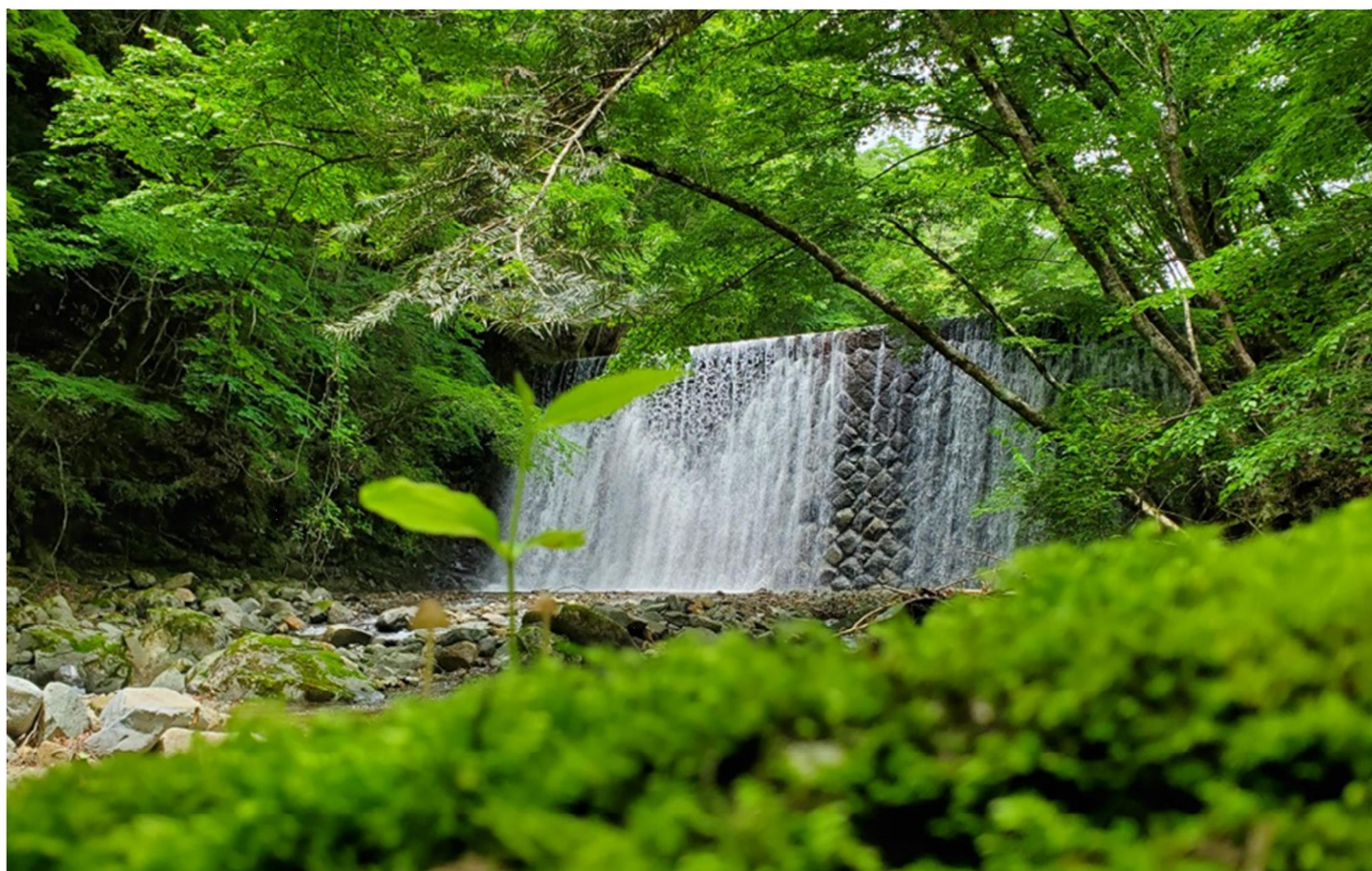
関東の森林から



国民の森林・国有林

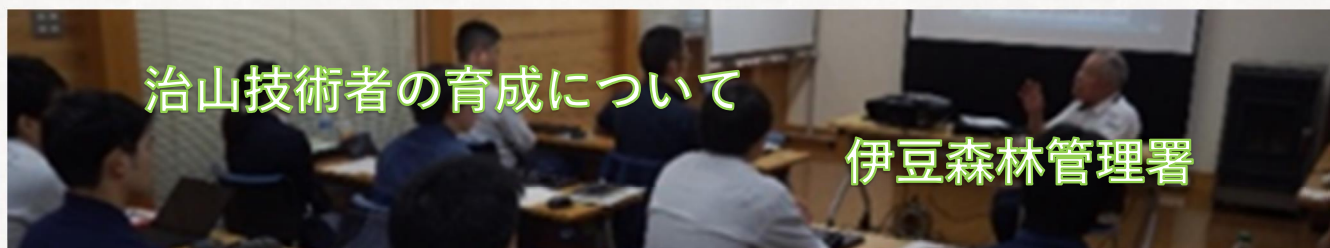
関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
<https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



- ◎ 治山技術者の育成について 伊豆森林管理署・・・1
- ◎ 中越流域民国連携会議の開催
～低コスト施工と効率化を目指す現地検討会～ 中越森林管理署・・・3
- ◎ 森林管理署等からのたより 棚倉森林管理署・千葉森林管理事務所・・・4
- ◎ 森づくり最前線 塩那森林管理署 伊王野森林事務所 森林官 藤田 英夫・・・5

【写真】 皇室林野局大又沢堰堤（昭和8年8月竣工） （東京神奈川森林管理署）



近年では局所的な豪雨が増え、各地で甚大な被害が発生しています。山地災害からの復旧を図るため、治山事業では、土石流により荒廃した溪流に治山ダム等を配置する溪間工や、山腹崩壊を森林へ復元していく山腹工などの工事を実施していますが、担当するベテラン職員の定年退職や中堅職員が少ない状況の中、経験の浅い若手職員への治山技術の継承が大きな課題となっています。関東森林管理局においても、人材育成や治山技術の研鑽に向けて様々な取り組みが行われている中で、今回は伊豆森林管理署での取り組みを紹介します。

【治山事業現地検討会の実施】

伊豆森林管理署において、実際に発生した山腹崩壊地の復旧にあたり、様々な視点から山腹工の復旧計画を考察することを目的とした治山事業（山腹工）現地検討会を令和7年9月25日～26日に開催しました。静岡県・山梨県・神奈川県内の森林管理署等及び静岡県職員の治山担当者、総勢17名が参加し、山腹工施設計画の検討とICT勉強会を実施しました。

山腹工施設計画の検討

まずは、現地を観察しながら崩壊地の状況や特徴、設計方針等について、5名程度のグループに分かれて意見交換し、治山施設の復旧計画や仮設方法について検討を行いました。

現地は急峻な地形で危険な箇所が多いため、参加者の安全を考慮し、限られた箇所からの観察としたため、詳細に現地の状況を把握することができませんでしたが、民有林、国有林問わず自由に意見を出し合うことにより、若手職員への指導や、民有林と国有林の違いなど、治山担当者同士が連携しながら検討を行い、白熱し意見交換が行われました。

その後、室内において、現地で検討した山腹崩壊地の復旧計画や仮設計画を図面に取りまとめ、グループごとに発表し意見交換を行いました。

近年では設計業務は外部発注することがほとんどですが、参加者は、様々な視点や発想で復旧計画を検討しており、職員自らが現地をよく観察し、復旧後の森林をイメージしながら計画することの重要性を学ぶことができ、参加者にとって良い経験になったと感じました。



現地での検討状況



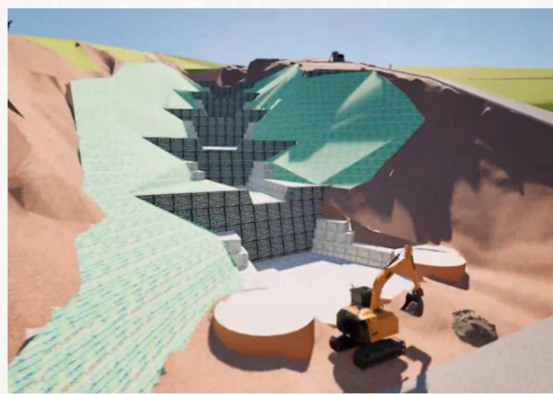
復旧計画を検討

ICT 勉強会

森林土木事業においても ICT 技術の導入を推進している中で、発注者としても建設業における ICT 技術を学ぶ必要があることから、森林土木工事において先進的な ICT を実践している受注者を講師に招き講義を行いました。ICT 建設機械での施工の実例紹介、実際の工事現場の 3 次元化や V R の活用事例、3D-CAD の取り組みなど、民間企業の先進技術などについて受講しました。参加者からは、「山間部で ICT が活用できることを知ることができた」「3D-CAD など国有林でも導入した方がよい」「考えもしない機能がたくさんあり衝撃的だった」といった意見があり、林野庁においても ICT を推進している中で、発注者としても技術の進化にしっかりと対応していく必要があると感じました。



ICT 勉強会の様子



実際の工事現場での V R の活用

関東森林管理局の管轄は 1 都 10 県と広域であるため、局内全体での現地検討会や研修会は日程の調整や実施箇所の選定など、大きな労力を必要としますが、今回のように小ブロックでの開催は、参加者の負担軽減や、施工条件に近い箇所であるため、自署でも参考としやすい等のメリットも大きく、有効な開催方法であると感じました。また静岡県の治山担当者にも参加いただいたことから、日常業務を含め、色々な面からの意見交換もでき、非常に有意義な検討会となりました。

経験の浅い参加者からも、いろいろな現場を見て体験したり、意見交換したりする機会を望む声が多く、今後とも継続した治山技術者の育成を行い、治山技術の継承に努めてまいります。

今月の表紙**帝室林野局大又沢堰堤（昭和 8 年 8 月竣工）（東京神奈川森林管理署）**

大正 12 年 9 月 1 日に発生した関東大震災は神奈川県に激甚な被害を与え、震源地に近い丹沢山地における崩壊面積は 10% 以上に達しました。当時、丹沢は国有林の前身となる皇室財産の御料地であり、この御料地内では大正 13 年～昭和 10 年まで帝室林野局が震災復旧工事を実施しました。現在も国有林内には、当時施工された石積堰堤が変わらぬ姿で残されています。



中越流域民国連携会議の開催 ～低コスト施工と効率化を目指す現地検討会～ 中越森林管理署

中越森林管理署では、令和7年10月8日（水）魚沼市生涯学習センター「ここいら」で、長岡地域振興局・南魚沼地域振興局共催による中越流域民国連携会議現地検討会を開催しました。

この会議は、中越流域民国連携会議を構成する三者が持ち回りで実施することになっており、本年度は中越森林管理署が担当であることから、主伐期を迎えた森林が抱える問題として、既存林道の規格が古い、搬出するにも地盤が脆弱など搬出路にかかる問題を取り上げ、検討会を実施することにしました。

当日は、講師をお願いした森林総合研究所 森林路網研究室の山口主任研究員による「道路改良による対策」、構造利用研究領域の加藤チーム長による「構造用合板を埋設する路面補強技術」の講義が行われ、県・市・森林組合等約50名の参加者が熱心に耳を傾けていました。特に従来の砕石や敷鉄板を使った路面補強に代わり、ホームセンター等で販売している安価な構造用合板を埋設する新しい工法においては、多くの参加者がメモを取る様子が見られました。



講義会場の様子

午後からは、魚沼市・南魚沼市に所在する民有林で、林道の改良や土壌の状態などについて現地検討会が行われ、「道によって収支が大きく変わってしまう。何か対策はないか。」「傾斜地でも合板を埋設することで効果が期待できるのか。」などと言った積極的な意見交換が行われ、盛況のうちに閉会することができました。

民有林関係者からの生の声を聞く機会が少ない中、こういった検討会が、それぞれの立場における林業の問題や新しいヴィジョンを共有していくきっかけとなるのではと期待できる1日となりました。



第1 現地会場



第2 現地会場

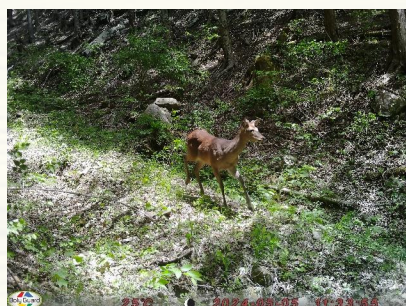
『森林管理署等からのたより』

～森林管理署等からの取組等を紹介します～

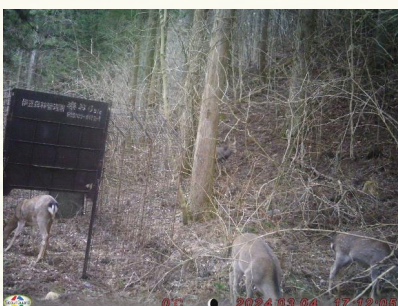
●八溝山地域におけるニホンジカ対策について～棚倉森林管理署～

野生鳥獣による森林・農作物への被害が各地で報道されていますが、これまで当署管内の町村においては、ニホンジカの生息は確認されてきませんでした。ところが、平成30年に県境に位置する八溝山系においてニホンジカの生息が確認されました。以後、八溝山周辺を管理する茨城署、塩那署と合同で「八溝山周辺国有林ニホンジカ対策協議会」を設立し、センサーカメラを林内に設置したモニタリング調査、くくりわなによる誘引捕獲に努めてきました。

令和6年度に実施した委託事業では、棚倉町内の国有林でセンサーカメラにより22頭が撮影され、設置した「くくりわな」によりメスの成獣1頭の捕獲に成功しました。委託事業につ



センサーカメラで撮影
されたニホンジカ



囲いわな周辺に
集まるニホンジカ

いては、今年度も生息状況調査及び誘引捕獲を実行中です。また、本事業と同様に県境付近において福島県、茨城県、栃木県が実施している「福島茨城栃木連携捕獲協議会」とも連携し、引き続き地元町村等へのニホンジカ生息状況等の情報提供や、広域的なシカ対策を実施していくこととしています。

●「ニホンノウサギ直営捕獲の取組」～千葉森林管理事務所～

当所管内では令和4年度から野兎による植栽木の食害が多く発生しているため、植栽木の保護対策として、令和6年度より職員実行による直営捕獲を実施しています。

捕獲には小型箱わなを使用し、12月から2月の間、スギ植栽地に10基及び、同箇所にセンサーカメラを設置し、野兎の動向などを観察しました。

観察結果を踏まえ、シカ柵内の柵に沿う形で設置することに加え、樹脂ネットで小型箱わな入口へ接続する誘導路を作設し、ヘイキューブなど22種類の中で最も積極的な採食が確認された「コウヨウザン」を誘因餌に使用したところ、野兎を4羽捕獲することができました。

今後の取組としては、林内にシカ柵に見立てた簡易的な柵を作設し、その柵沿いに小型箱わなを設置する等、工夫しながら捕獲数を増やし、継続的に実施できるよう、ノウハウの確立を目指すほか、捕獲は人工のかかる作業であるため、見回り等の負担が少なくなるよう簡略化についても取り組んでいく予定です。



小型箱わな設置状況



捕獲した野兎

森づくり最前線

塩那森林管理署 伊王野森林事務所 森林官 藤田 英夫



38 林班から望む那須連峰

私が勤務する伊王野森林事務所は、栃木県北部の那須町の東側に位置し、栃木・茨城・福島の三県にまたがる八溝山の北側の那須町と大田原市の国有林（約 1,900ha）を管理しています。

当地域は古くから林業が盛んであり、良質な八溝材の産地として有名です。木材搬出に伴い民有地を通過することも多いですが、地権者は林業への造詣も深く森林組合からの助言もあり協力が得られやすい地域です。那須町と言えば、誰もが有名観光地「那須湯本」を想像するでしょうが、それらは当事務所管内の西側にあたります。

当事務所が管理する国有林の約 90%がスギ・ヒノキの人工林であり、国有林・民有林共に主伐期を迎えており、一年を通じて伐採と植林を循環的に行い木材の安定供給に取り組んでいるところですが、分収林等の皆伐箇所が増加する中で、新植に必要な苗木が計画に沿って確保できない等の問題が発生しており、樹種の変更または植付け時期の変更を行い対応しています。

今年の夏は全国的に異常な猛暑であり請負事業体の那須町森林組合では、正午に作業終了する早出時間を採用して作業員の健康管理に努めていますが、業界的には労働環境の厳しさから若手職員の離職も問題と聞いています。



貸付地「追分の明神」



弁慶伝説「矢の根石」



伊王野に迫るシカの足跡

私事ですが、今年から暫定再任用職員として 30 年ぶりに森林官業務に携わることになりました。現役時代は 23 年間を治山・土木業務に従事していたため、森林経営・森林育成・製品販売等の実務は素人であり、若手職員からご指導いただきながら日々の業務に取り組んでいます。退職時は「まだまだ現役」という気持ちでした。昭和採用の私が今できることは、塩那署勤務経験 18 年のアナログな知識や技術を若手職員に指導していくことで、今の自分が頑張れる環境づくりに力を注ぎ、その環境があることに感謝することだと思います。

当事務所管内では、ツキノワグマ・ニホンシカ等による獣害や、ヤマビル・マダニ・カシナガキクイムシ等の虫害は確認されていませんが、塩那署管内では 30 年前からクマ・シカ被害が顕著となり、近年はナラ枯れの侵食など森林被害対策に苦慮しているところです。



跡地検査中の筆者